

兵庫・大阪連携会議 議事録

日時：令和3年12月26日(日)

13:45～14:45

場所：新西宮ヨットハーバー

2階「シャイニーホール」

1 開 会

<事務局>

- ・出席者名簿により紹介

2 会議の設置

<事務局>

- ・会議設置要綱により説明

3 両府県知事プレゼンテーション

<齋藤兵庫県知事>

- ・今日、ここ西宮ヨットハーバーに吉村知事をお迎えして、そして山口副知事、大中部長をはじめ大阪府の関係者の皆様にお越しいただきまして、第1回の兵庫・大阪連携会議を開催させていただくことを本当にうれしく思います。改めまして感謝申し上げたいと思います。
- ・オミクロン株などコロナに関して警戒すべき状況にもなっておりますけれども、引き続き、コロナ対策を万全にする中で、一方で、経済はこれからしっかり立て直していくということが大事です。
- ・兵庫と大阪が連携させていただいて、関西から日本の成長軌道に向けて流れを作っていくということが日本全体にとっても大事、関西にとっても大事です。
- ・兵庫県と大阪府が連携していくことが関西全体にとって大事だということをお公約の中で言わせていただきましたけれども、吉村知事と就任前からお話をさせていただいて、そして今回、両県の連携会議の立ち上げに至りました。
- ・先ほど吉村知事をお迎えしたときにヨットハーバーから、港の向こうを見ていただきましたけれども、このベイエリアを挟んで、兵庫と大阪が一体となって、これから万博もありますけれども、2025年に向けてしっかりと歩んでいく、そして成長に向けて流れをつくっていくということが大事だと思っています。どうぞよろしくお願いします。

ープレゼンテーションー

<吉村大阪府知事>

- ・本日は兵庫・大阪連携会議を開催できることになりました。
- ・これについて、齋藤知事、そして片山副知事、小橋部長、また兵庫県の皆様、これからどうぞよろしくお願いいたします。
- ・やはり関西の経済を強くする、これが非常に重要だと思っています。
- ・そのためには、兵庫と大阪が連携することが非常に重要だと思っています。
- ・齋藤知事が選挙で公約も掲げられました。
- ・僕自身も齋藤知事の応援に行ったときに、兵庫県民の皆様にも、応援演説で

訴えさせていただきましただけけれども、やはり兵庫と大阪がもっと連携して、もっと関西の経済を強くしていこうと、お互いが成長する関西を作ろうということを訴えさせていただきました。

- その一つとして、今日、兵庫・大阪連携会議が実現できたということを楽しんでいます。
- 今まで、いろんな情報共有とか、様々な連携というのは当然やってきたわけでもありますし、関西広域連合でもやっているわけでもあります。それぞれ兵庫と大阪が、自治体同士が向き合っていて、事業部局同士が向き合っていて、具体的な政策を打っていくというのは、これまでの兵庫・大阪にはなかったことですし、全国の都道府県を見ても、ほぼないことだと思っています。
- それぞれの都道府県で完結させるというのが今の日本の自治のあり方なんですけれども、僕はそれは違うと思っています。
- やはり東京一極集中がものすごく進む。また、世界でもいろんな都市がどんどん成長していく。
- これからは国で選ばれるというよりは、都市、圏域で選ばれるという時代になってくる中で、それぞれの都道府県が自分たちの圏域というか、自分たちが引いた線の中で考えるのではなくて、それを超えた範囲で一つの都市圏として世界と勝負する。そして経済の拠点をつくる。これが非常に重要だと思っています。
- 開かれた視点、そこが非常に重要だと思っています。
- その中で兵庫・大阪が連携していくということが、関西の経済を強くすることによって非常に重要だと思ったり、ぜひそれをこの会議を通じて実現したいと思っています。

ープレゼンテーションー

4 意見交換

<齋藤知事>

- 両府県の提案を踏まえまして、是非これから、具体的なプロジェクトで、どういった連携をしていくかということ、今日掲げさせていただいた以外のことも含めて詰めていきたいと思っています。
- やはり万博に向けてどうやっていくか、吉村知事が成長戦略局を立ち上げるとの報道もありましたけど、我々も万博に向けてしっかり庁内で連携体制を作っていこうと考えています。県庁内組織も改革して、いろんな政策を全庁的にやっていくというような取組を今進めています、そういった意味で連携しやすい体制を作っていこうと思います。
- 特に海上交通ですね。具体的には、ここから夢洲までは普通の船でも数十分で行ける距離ですから、具体的にこれからどういうふうにやっていくかということ、相談させていただくことも大事だと思っています。

<吉村知事>

- 海上交通に関しては是非、僕も進めたいと思っていて、西宮もそうだし、尼崎なんて言ったら目と鼻の先だと思うんです、夢洲まで。議会でも議論が出たのですが、**1 km** か **2 km** か、大阪府内で夢洲に行くより尼崎から行く方がよっぽど近いというぐらい近い距離にもありますし、ここからも非常に近い。
- そういった意味で、兵庫のどのエリアと大阪の夢洲を中心としたどのエリア

をつないでいくのか、海上交通の具体的なルートとか、そういった具体案を是非兵庫・大阪の事業部局同士で検討をお願いしたいと思います。

- ・大阪は、大阪市も大阪府も持っている港を一つにして、大阪港湾局というのを作り、そして、今堺（堺泉北港）、これはもともと大阪府が管理している港湾ですけど、堺市と一緒にまちづくりをして、堺旧港というのを作って、その堺旧港と夢洲をつなごうということも色々やっているの、堺旧港と夢洲、堺旧港と神戸港、尼崎、そして今淡路島も非常にホットと聞いていますので、淡路島のすばらしい自然もあり、仕事もしやすいということも聞いていますから、もっと言うとな僕は瀬戸内にも広がったらいいかなと思ってはいるんですけど、そういった海上交通網を高めていく。
- ・大阪でやっているのは、夢洲から大阪の内部のいわゆる道頓堀とかにつなげていくために、まずは中央卸売市場のあるところに、一つのスポットを作って川の船に乗り換えられるようにするとか、そういう取組みも進めていますので、そこから夢洲で終わるんじゃないかと、夢洲から兵庫に繋がっていく海上交通の具体的なスキームを検討してもらえたらなと思います。

<齋藤知事>

- ・まさにご指摘の点がとても大事です。淡路島にも今パソナさんを含めて、大分投資をしていただいています。その流れもあって、いろんな人やモノ、投資の動きが淡路も含めて出てきていますので、それを是非観光も含めた、人の流れにもつなげていきたい。
- ・また、兵庫県は関西圏域と、それから瀬戸内圏域など、いろんなところの結節点となっています。瀬戸内もいろんな文化・芸術を含めて盛り上がっていますから、瀬戸内を巻き込んだ人・モノ・投資のダイナミックな流れ、特に人の流れの期待も結構あります。
- ・大阪の観光プランの中でも、瀬戸内も視野にいれると言うような話も入っていたと記憶していますので、そういった大きな視点でもいずれば進めていきたいと思っています。

<吉村知事>

- ・港に関して言うと、大阪では、大阪市の大阪港、それから大阪府が持っていた、大阪市域外の大阪が管理する堺泉北港、大阪南部の港を一元管理しているというので、大阪港湾局というのを作りました。
- ・そして、そこで、世界の様々な強い港とやりあっていくには、大阪市が管理しているのと大阪府が管理しているのをバラバラにやるのは良くないだろうというので、そういったこともやりました。
- ・というのはやっぱり釜山とか上海、シンガポールもそうですけど、近隣のアジアの諸都市の港の戦略というのは強烈な戦略を作っていて、そこがライバルだと考えたときに、大阪市と大阪府がバラバラにやるのは良くないだろうという発想で大阪港湾局をつくりました。
- ・貨物とか、まさに港湾機能に関していえば、今日は神戸市はいらっしゃいませんけれども、神戸市は神戸港を管理している。そこ以外はたぶん兵庫県が管理していると思うんですけど、大阪港湾局も神戸も兵庫も一つの管理主体にして、港を統合して、経営統合して関西港をつくるぐらいのことも僕は視野にいれてやったらいいんじゃないかと思うんですけど。神戸市がいない中でなかなか判断できないですけど、それぐらいのことをやらないとや

っぱり釜山や上海と張り合っていくのは難しい。

- ・世界的に見れば一つのエリアなので、港は一体で一元化管理、一元経営するぐらいの方向性をめざすべきじゃないかなと思うんですけど、どうですか。

<齋藤知事>

- ・そこは本当に大事な視点だと思っています。このベイエリアはまさに一体です。神戸港と大阪港、泉南も含め、堺泉北もいろんな強みがそれぞれあると思うので、その強みをどう生かしていくのかという視点のもとで、実務的なところで経営の共有化というのは進めていますけど、どういうふうにしていくのかというのはこれから大きな流れで議論していくことが大事かなと思っています。
- ・特に、水素の拠点性向上について、これから川重さんを含めたサプライチェーンや、西オーストラリアから(の輸送を)どうやっていくか。大阪湾の中にも、水素のサプライチェーンの拠点をつくるという話になったときに、そういった流通をどうしていくかというのも含めて戦略的に検討していかなければいけない時代もきます。どういった形で合理的な港湾の経営を一緒にしていくのかというのは、しっかり議論していかなければならないと思っています。

<吉村知事>

- ・ただここは、僕は大阪市長も経験したので、やっぱり大阪市の港湾は大阪市長だし、おそらく神戸は神戸市長で、齋藤知事がなかなか判断できるところは少ないだろうなど。それが今の自治体の在り方だと思うので。もし可能であれば、次の会議ぐらいに、松井市長や久元市長にもちょっと来ていただいて、港湾についてはこうすべきじゃないかみたいな議論をするというのはどうですかね。来てくれるかどうかかわからないですけど。

<齋藤知事>

- ・そうですね。

<吉村知事>

- ・僕らが勝手にここで言っているだけですが。知事同士が言っても政令市が動かなければ進まないという日本の自治の問題もありますが、来てもらって港湾の関西港の在り方というのはやってもいいんじゃないかな。

<齋藤知事>

- ・いろいろな考えあると思いますが、そういう大きな、前向きな未来に向いての投資も大事かなと思います。あと、もっと具体的にいうと、兵庫県が管理しているのはまさにここの、芦屋西宮尼崎港湾です。ここは県管理港湾なので、港湾計画の改訂なども今やっていますが、大阪と もっと具体的に連携していけるかは、県の仕切りでできる世界です。ここでどうやって投資を促していくのかという、線引きとか絵の書き方というのは、(大阪に)近いのでバラバラにやるよりは、棲み分けと整理をすることができる世界でもありますので面白いかなと思います。

<吉村知事>

- ・西宮尼崎の港湾は兵庫県が管理している、大阪は今港湾局で市も府も一つで管理しているが、そこで共同で海運を含めてやっていることは具体的に、先に言ったルートも含めて是非進めていきたいと思います。
- ・僕から松井市長に言うので、齋藤知事から久元市長に言うので、来てくれるかわからないけど「こんな議論があったよ。よかったら次来てもらえないか」みたいな形で、関西の港湾はどうあるべきか、釜山等とどうやったら張り合えるだろうというのは、協議をする会議みたいなのはあった方が、関西経済にとっていいんじゃないかなと思う。ちょっと松井市長に言うので。ずっとこの会議に政令市が入る必要はないと思う。
- ・ただ、港のことを考えると、コアなところは政令市にあるというのは、そういう海運で繋ぐというのはできると思うのです。
- ・例えば、空飛ぶクルマを神戸港につなぐ、神戸港と海運をつなぐにしても、管理者が神戸市になると思う。独立しているじゃないですか、今の自治体の制度上。
- ・なので、そういった意味では、港湾を一元管理していくことが重要かと思うのですが、松井市長に言うので、(私は)久元市長に言えないから、齋藤知事から言うてみてください。どこまでいけるかわかりませんが。

<齋藤知事>

- ・言うておきます。いろんな形でトップが集まって、空港とかも同じような仕組みがありますから、そういった形で、港湾、ベイエリアをどうしていくのかっていうのは、吉村知事おっしゃるように、一度話すのは大事かなと思います。

<吉村知事>

- ・観光とか、いろんな世界への働きかけというときに、どういうやり方がはたして世界への働きかけとして有効なのかというのを、ちょっと我々もいろいろ国際金融都市として詰めているところもあるんですけども。また、兵庫の担当部の人とも詰めさせてもらいたいと思います。
- ・単に姉妹都市があつて、そこに行って、お酒を飲んで、はい帰っているという、あれじゃ僕はなかなかビジネスは呼び込めないと思うので、具体的にどういうふうにすればビジネスチャンスが広がるだろうか、スタートアップの呼び込みもそうだし、投資の呼び込みもそうだし、ジャンルによっていろいろ違うと思う。
- ・行政的な、人と人との交流は大事だと思うので、それは姉妹都市交流とかやればいいと思うんですけど、ビジネスを呼び込むという視点からの戦略的な広報の仕方、これは民間とも協力しながらやらないと、なかなか成り立たないと思いますが、ちょっとそこをぜひ、両組織で実務的に詰めてもらいたいと思います。
- ・齋藤知事がいろんな戦略を出されて、どうしても兵庫の財政も厳しい。ずっと知事が受け継ぎながらやっていますから、齋藤知事も財政改革というのをされている中で、海外事務所の統廃合もちょっとニュースで見たんですけど、それをやりながらでも何かできないかとか。逆にそれをやりながらでも海外からの投資を呼び込む方法って何だろうっていうことを詰めさせてもらいたいし、場合によっては事務所の統廃合したうえで共同化みたいなものもやってもいいんじゃないかなと思う。

- ただ、事務所があるからそんなに呼び込めるかということ、単純な話ではないので。そこは兵庫と大阪の持っているコンテンツは共有して発信する、戦略的に民間と一緒にPRしていくっていう。ここなんかできないかなと思うんですけど。そのへんどうですかね。

<齋藤知事>

- 是非一緒にやっていきたいなと思っています。吉村知事がおっしゃったように、兵庫県では行財政改革をやっていまして、今一次案を出しているところです。財政状況が厳しい中で成長に向けてしっかりやっていくためには、一旦その行財政改革をしっかりとやって、筋肉質な行政体質、財政体質を作ったうえで、成長に向けて踏み出していくことが私は大事だと思っています。今の行革のプランを出させていただいていますが、そこからどうしていくかという流れを是非作っていきたいと思っています。
- その意味で海外にどう売り込んでいくかということのも大事で、海外事務所についても統廃合に向けて一歩を踏み出しているところです。姉妹都市交流とか単に知事が出張するときだけの役割、それ以外もあると思うんですけど、というよりも、どうやって半導体とかそういうのも含めて兵庫のいいものを発信していけるか、(投資を)呼び込めるかということが大事なので、その機能面に立って何が大事かということをもう一度考えなきゃいけないという問題意識があります。是非そこは一緒になってやっていきたいと思いません。
- 特に、国際金融都市の議論にもつながりますけど、多くの海外から来たビジネスの方、それからスポーツ選手含めて、多くの方が六甲アイランドなど兵庫県内、神戸・芦屋・西宮あたりに住んでおられます。海外の方向けのマンションであったり、それから医療施設も多言語対応といったところで、その辺の強みがあるので、ビジネスの点と居住性の点でうまく兵庫と大阪が連携していくことで、投資も含めて、いろんな人材を、関西に呼び込んでいくという力を発揮できるんじゃないかなと思っています。
- そのためには一つの手段として、海外事務所をどうするか。後はトップセールスをどうしていくかと、国別にとか、ぜひ一緒にプロジェクトとして議論していきたいなと思っています。

<吉村知事>

- 今齋藤知事がおっしゃったことはすごく重要だと思っています、例えば国際金融都市を我々目指していますが、経済の拠点として大阪市内中心部、そこを中心としながらというのは当然あると思うんですけど、国際金融都市として海外から金融のプレーヤーを呼び込むとなると、単に経済拠点だけじゃなくて、住環境、その家族が住みたくなるような環境であったり、教育部門であったり、或いはさっき齋藤知事がおっしゃった海外の方の病院はどうか、住むマンションどうなのか、海外のビジネスマンやスポーツ選手が神戸や西宮にお住まいだということもありますけど、大阪にはその拠点があるかということ今はないと思っています。
- 例えば国際金融都市として、いわゆる生活住環境も含めたパッケージでプレゼンテーションするとき、そういった兵庫、神戸、芦屋、西宮にすばらしい住環境があるよ、教育環境もあるよ、そして経済拠点は梅田とかがあるよといったこともセットでプレゼンテーションができれば、これはお互いにとって **win-win** になると思うし、相乗効果が発揮できると思う。今は何も

ない。パイの奪い合いではなくて、外に向けた発信としてはそういうこともできるだろうと思う。

- ・国際金融都市の提案もさせてもらいましたけど、その具体的なところで一緒に何かできるところは是非させてもらいたいと思う。

<齋藤知事>

- ・大阪に勤務しているときからすごく大事だと思っていて、国際金融都市の発信を大阪でやられてたときに、住むところは兵庫県が神戸も含めていっぱいあるから、組んだ方がいいのになと前から思っていました。是非、国際金融都市以外にもいろんな投資やスタートアップを呼び込んでいくという意味でも、そういった住環境やインターナショナルスクールなどは兵庫県内にいっぱいありますから、そこは吉村知事おっしゃったようにパッケージで売り込んでいくということを絶対した方がいいかなと思ってましたし、是非ここはやりたいと思ってます。

<吉村知事>

- ・齋藤知事がおっしゃった、まず、財政の立て直しが必要、そして、筋肉質にして、今の成長戦略をやるべきだっていうのは、本当にその通りだと思います。大阪は10年前、本当にひどい状況でしてね、めちゃくちゃな状態だったんですね。財政も含めて。でもそれを、当時橋下知事が、立て直すというので入って破産会社じゃないかというところからスタートしました。
- ・その年の予算は一旦全部凍結するというめちゃくちゃな荒療治をやって、いろんな財政改革をして、血管の根詰まりを治して、そして筋肉質にして、それでも大阪はまだまだ財政厳しいので続けているんですけど、いろんな成長戦略にも投資できるようにもなってきたというところもあります。
- ・なので財政の立て直しは我々当然タッチできないところですし、齋藤知事が思いをお持ちのところだと思うので、そこは齋藤知事に思いっきりやっていただいた上で、我々として共同してできるところがあるのか。財政の立て直しもせずに、いろんなことを一緒にやる、その時にいろんな費用がかかるので一緒にやりましょうとは言いませんので。
- ・やっぱり兵庫県の皆さんのことを考えて齋藤知事は動かれると思うので、財政の立て直しは見えないけど、結構大事なことなので。
- ・そこを中心に据えて、その先にあるものとして、我々で共同できるもの。今あまりお金かけられなかったら、お金をかけられる範囲でこれをやって、長い目で建て直した上で成長戦略やりましょうとか、そこは僕らの成長戦略を実行する上で、齋藤知事の財政立て直しは応援していますし、何か無茶を言うつもりは全然ないので、そこをまず優先してもらった上で、成長の分野でできるところ。兵庫の財政事情は僕はわからないので実際のところは、できるところは一緒にさせてもらえたらなと思います。

<齋藤知事>

- ・ありがとうございます。まさに今、行革をやっていきますけど、スクラップアンドビルドも当然大事で、スクラップをやった上でどうビルドをつくっていくかっていうところ。ビルドが見えないっていう批判もありますけど、ビルドってなかなかすぐには見えない部分ですので、一旦きちっと筋肉質にしていくと。今までの県政の中で、本当は見直したかったけどなかなか言い出せなかったというのは結構あるので、それを思い切って、知事交代直後の

まさに今だからこそできる。ということ、あんまりしがらみがないので言っているんですけど、いろんなご意見があるので丁寧にやりつつ、財政調整基金も30億ぐらいしかなくて、コロナで単独で何かやるということが全然できない状況なので、そこはしっかりやりながら成長に向けてやっていく。

- そのうえで、やっぱり時間も大事なので、財政改革ばかりやって、いつまでも成長に向けて打ち出さないようでは駄目なので、一緒になって同時並行的にやっていくというのも大事です。その時に兵庫県単独でいろんな施策をやっていくというよりも、兵庫と大阪がしっかり組んで、そこでやっていくというのがビルドを作るうえで合理的です。公民連携を大阪府さんやってますけど、公でやるだけじゃなくて民間と一緒にやることで、いろんな財政的な削減にもなります。そういった意味で兵庫と大阪がしっかり組んでいくことで、ビルドに向けて、コストも含めて、一緒にシェアリングしてやっていくことで、より合理的な成長戦略を作っていけるんじゃないかなと思ってます。
- 私の県政運営でも、第1のところオープンな県政をやっていくというところですので、そういう意味でもよろしくお願いします。

<吉村知事>

- フルオープンで財政再建も頑張ってください。それを邪魔する気は一切ありませんので、財政再建で筋肉質にしてもらって、その中で一緒に成長できるところは成長していきたいと思います。

<吉村知事>

- 具体的に進めていく上で、両副知事に確認しておきたいと思います。方向性は示しますが、この会議はそんな頻繁にするものではないので、年に2回とか、確認とか方向付けのためにやっていきますが、具体的に実務で動いて事業部局を動かしていく必要がある。
- どういうふうにして動かしていくのか、両副知事にやり方とか進め方を確認したい。

<片山兵庫県副知事>

- 吉村知事が言われたことは、非常に素晴らしいことだと思います。都道府県はこれまでの行政は都道府県で完結していたと、他府県とやっていくことは今までないのではないかと、全くその通りです。
- それを打破していくために、我々のところで事業部門での連携、当然最初は企画的な部分から始めますが、一つ大阪と連携していくための具体の組織的なものを作って、そこで実務的に処理するという提案したいと思います。
- 知事から指示がありましたのは、若者の流出が非常に激しいと、どう対応していったらいいかということですが、東京に対抗するのはなかなか難しい。ところが今日両知事の話のなかで、もし大阪とタッグを組めば、もしかしたらそれに対して答えがでるのかなと思ってます。そういった一定の組織的なものを作って対応していったほうがいいのではないかと提案をさせていただきます。いかがでしょうか。

<山口大阪府副知事>

- ・両知事のお話を聞いて、この会議は実益をだしていくことが一番大事だと思います。単に会議の上で連携しているということではなくて、具体的には施策に活かしていくことが必要だと思います。
- ・そういう意味で、今片山副知事が言われたカウンターパート方式じゃないですけど、両県で**PT**（プロジェクトチーム）みたいなものを作って、しっかりとそこで、例えば海上交通であればどう進めていくのか、ルートもそうですし、ネックになっている民間事業者にどう参画してもらえるのか。そのために魅力的な航路であるとか内容であるとか、そういうのをどう作っていくのか。
- ・しっかりと両県で、それぞれの事業部局が我々も間に入れていただいて、できるだけ施策化して実行していく。このことを基本に協議をさせていただきたいと思っていますので、そういう方向で取り組みたいと思います。

<吉村知事>

- ・今片山副知事がおっしゃったのは、兵庫県の組織の中に連携会議課みたいなものを作る、どんな具体的なイメージはお持ちなのですか。

<片山副知事>

- ・そこまでは難しいと思いますが、委員会的なもの、私と山口副知事が事務部門の窓口を作って、それから各部門に落とししていく。そういった形にしたいと思っています。

<吉村知事>

- ・齋藤知事、片山副知事と山口副知事を実務のトップとする連携委員会みたいなものを作って、そこで実務的に動かしていってもらおうというのでどうですか。

<齋藤知事>

- ・そこが実務レベルの幹事会のような感じで、両副知事を窓口にして、いろんなプロジェクトベースで、部ごとに連携していくのが大事かなと思っています。兵庫県って今5つの部しかなくてですね、でも部長は10人ぐらいいる。なんかヤマタノオロチみたいになっててそれを今回、令和4年度からオーソドックスな部制に戻す。戻すというかイノベーションしていくんですけど、そういった意味でもいろんな連携がしやすい体制にしますから、そこを是非両副知事がそれぞれの仕切りをやってもらって。山口副知事も大中部長も昔からよく知ってますので、是非よろしくをお願いします。

<吉村知事>

- ・片山副知事と山口副知事で幹事会を立ち上げていただいて、実務組織を動かすということでよろしくをお願いします。

<事務局(守本政策調整局長)>

- ・それでは時間も参りましたので、意見交換を終わらせていただきますが、最後に、当面の連携項目を僭越ながら、私のほうで確認をさせていただきたいと思っています。
- ・当面の連携項目として、大きな括りとしては産業と観光の2項目。産業につ

きましては、特に、海外から人・モノ・投資を呼び込むための具体的な連携策、トップセールスもそうですけれども、戦略的な広報のあり方などについても、具体的に検討する。さらにスタートアップの創出育成の連携などを進めたいと思います。

- それから観光につきましては、大阪・兵庫エリアを一体ととらえた観光メニューの充実、周遊観光の充実。
- それから海上交通ですけれども、具体的なルートづくりですとか、或いは民間も含めた自立的なスキームの構築、こういったものを検討する。さらには中期的には、瀬戸内との連携も見据えていくと、こういったものを、具体的な検討を進めたいと思います。
- それから港湾につきましては、次回に向けた課題とさせていただきたいと存じます。こういうことでよろしいでしょうか。
- それでは今後は、先ほどお話にあったように、両副知事を実務部門のトップとしまして、それぞれ担当部局同士でカウンターパート方式で具体的な連携方策の検討を進めまして、検討結果につきましては次回の会議でお諮りをさせていただきたいと思います。
- 本日はこれで閉会とさせていただきます。ありがとうございました。

5 閉 会